

数理工学教室創設30周年記念誌

平成元年11月

京都大学工学部数理工学教室

数理工学教室創設30周年記念誌

平成元年11月

京都大学工学部数理工学教室

数理工学教室 30 周年を迎えて

京都大学工学部数理工学教室は昭和34年4月に創設されてより、今年、平成元年4月で満30年を迎えました。この年月は昭和の時代の後半分に当たります。

数理工学教室は、我が国の高度経済成長への転換期における理・工学部の拡張に伴って設立されました。その設立の目的は、「豊かな数学的・物理学的知識を備え、工学における各専門学科の共通領域を総合的に研究開発すると同時に、工学全般にわたって広い視野に立つ技術者および研究者を養成する」ことにありました。

この工学を横断的にみる視点は、従来にない全く新しいものであり、この視点になじむまでには一種の戸惑いがみられたことは否めません。ちょうど10周年目は、大学紛争の渦中にあり、教官・学生交えて数理工学について熱心な議論が行われました。数理工学に対する認識が産業界、学界において定着していったのは、次の10年が経過していく中で、卒業生がそれぞれ中堅幹部技術者、研究者として活躍の場をもつに至ってからであります。これは、たんに数理工学教室が成年に達したというだけではなく、科学技術の高度数理化に対処するという数理工学の理念が社会的要求、趨勢と合致していたことが、その背景にあったためであると察せられます。

その後の10年間は、産業界に高度情報化・システム化の要求が高まった時期でありました。それに対処するため、昭和62年には工学研究科に応用システム科学専攻が設立されました。この専攻は数理工学の講座も基幹となって発足し、今年さらに整備拡充され、数理工学教室ともども今後の発展が期待されております。

1989年は近來になく、国の内外において激しい流動的变化が起こっております。これは変化の始まりであって、科学・技術の発展・利用のされ方はこの変化と無関係とは思われません。より広い視野から柔軟に、木目細かく、対処することが益々要求されていくと考えられます。これをふまえて、21世紀へ向かう数理工学教室の新たな発展を祈念してやみません。

平成元年11月

工学部教授

上 田 顯

数理工学教室のこれからに思うこと

工学部長 得丸 英勝

昔、中学校や高等学校時代の友人から「数理工学科とは何を教える学科であるか」という質問をよく受けた。丁寧に説明してもなかなか分かってもらえなかった。ある時、面倒くさくなりコンピュータと一言言ったらすぐ了解してくれた。以後、必ずコンピュータを引合いに出すことにしていた。最近、コンピュータを引合いに出したとき、「それでは情報工学科とはどう違うのか」と尋ねられるのがまた面倒である。「システムをやっている」と答えても分かったような分からないような顔をされるのが落ちである。仕方が無いから「数理は数学的基礎をしっかり教育している」と答えると了解してもらえる。

以上は素人の話であるが、素人に魅力的な学科であることは大切な事だと思う。最近の受験生諸君は数理工学科にどんな魅力を感じて受験しているのだろうか。

話は変わるが、昔、数理の各研究室では数学関係の本のゼミを盛んにやっていた。最近、ゼミの本の種類がだいぶ変わってきているようである。これも時代の流れであり進歩なのであろう。

昔から数理工学教室の教官は文献をよく読み、その時その時の最先端の研究をやっていたように思う。これは今も変わっていないようで、大変結構なことである。ただ、もしこの結果、研究テーマを常に文献のみから選ぶ様なことになっては大変である。物事の本質を見失うことになりかねないからである。日本には改良とか改善の技術はあるが、独創的な技術は少ないと言われているが、それこそ同じように、改良とか改善のみを志す様なことになりかねないのが恐ろしいのである。

鬼に金棒と言うが、数学的基礎がしっかりしていて、かつ具体的事象に理解力があれば、きっと立派な独創的研究成果をあげられると信じている。このような研究は10年か20年に一つ出れば十分なのかも知れない。これからの10年、20年が楽しみである。

素人に魅力的に見え、そして立派な研究が行われる学科は、それこそ鬼に金棒の学科であり、数理工学科がそんな学科であり続けることを祈っている。

目 次

数理工学教室30周年を迎えて	i
数理工学教室のこれからに思うこと	ii
1. 寄 稿	1
2. 応用システム科学専攻の創設	41
3. 教官陣容の変遷	47
4. カリキュラム	55
専門課程科目標準配当表	57
修士課程科目標準配当表（数理工学専攻）	69
修士課程科目標準配当表（応用システム科学専攻）	81
5. 学部特別研究題目一覧	87
6. 修士論文題目一覧	111
7. 博士学位論文題目一覧	131
8. 教官による研究発表論文題目一覧	141
あとがき	217

数理工学科創設の昭和34年から昭和54年までの20年間の教官陣容の変遷については、前回刊行の「数理工学教室の20年の歩み」に詳しく述べられている。ここでは、それ以後の各講座の陣容の変遷を表の形にまとめることとした。すなわち、昭和57年10月1日、および昭和61年7月1日現在の職員の配置を掲載し、また昭和61年4月に新たに応用システム科学専攻が創設されたため、平成元年8月1日現在の数理工学教室、応用システム科学専攻の配置も掲載した。また、人事の記録として終わりに年表もつけている。

昭和57年10月1日現在

3. 教官陣容の変遷

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官	用務員
応 用 数 学 講 座 制 御 理 論 講 座 計 画 シ ス テ ム 講 座 計 画 工 学 講 座 応 用 力 学 講 座 応 用 シ ス テ ム 解 析 講 座 工 業 数 学 講 座 工 業 力 学 講 座 工 業 数 学 第 2 講 座 事 務 図 書 計 算 機 室 学 生 実 験	大矢 長谷川 三根 上田 得丸 池田 伊原 布川	藪下 片山 茨木 大野 足立 鶴井	久保 野木	森本・多羅間 荻野 高橋・室 河合・福嶋 宗像 酒井 前田・明山 松下・五十嵐 松村・山本	栗田 小林 嶋田	篠田 篠田 松井 塚原 北川 北川 松井 今北・安原 中興	井口

昭和61年7月1日現在

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官
応 用 数 学 講 座 制 御 理 論 講 座 計 画 シ ス テ ム 講 座 計 画 工 学 講 座 応 用 力 学 講 座 応 用 シ ス テ ム 解 析 講 座 工 業 数 学 講 座 工 業 力 学 講 座 工 業 数 学 第 2 講 座 事 務 図 書 計 算 機 室 学 生 実 験	大矢 片山 長谷川 茨木 上田 得丸 西村 伊原 布川	藪下 酒井 福嶋 浅田 岩井 鶴井 野木	松村 荻野	森本・多羅間 藤中 高橋・室 増山・大西 石森・金子 石田・飯國 明山・三澤 松下・五十嵐 山本・杉本	栗田 小林 嶋田	篠田 篠田 小池 藤澤 大高 北川 北川 小池 安原・長屋・藤澤 中興

数理工学科創設の昭和34年から昭和54年までの20年間の教官陣容の変遷については、前回刊行の「数理工学教室の20年の歩み」に詳しく述べられている。ここでは、それ以後の各講座の陣容の変遷を表の形にまとめることとした。すなわち、昭和57年10月1日、および昭和61年7月1日現在の職員配置を掲載し、また昭和61年4月に新たに応用システム科学専攻が創設されたため、平成元年8月1日現在の数理工学教室、応用システム科学専攻の配置も掲載した。また、人事の記録として終わりに年表もつけている。

昭和57年10月1日現在

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官	用務員
応 用 数 学 講 座 制 御 理 論 講 座 論 理 シ ス テ ム 講 座 計 画 工 学 講 座 応 用 力 学 講 座 応 用 シ ス テ ム 解 析 講 座 工 業 数 学 講 座 工 業 力 学 講 座 工 業 数 学 第 2 講 座 事 務 図 書 計 算 機 室 学 生 実 験	大矢 長谷川	藪下 片山 茨木 大野 足立 鶴井	 久保 野木	森本・多羅間 荻野 高橋・室 河合・福岡 宗像 酒井 前田・明山 松下・五十嵐 松村・山本	 栗田 小林 嶋田	篠田 篠田 松井 塚原 北川 北川 松井 今北・安原 中奥	井口

昭和61年7月1日現在

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官
応 用 数 学 講 座 制 御 理 論 講 座 論 理 シ ス テ ム 講 座 計 画 工 学 講 座 応 用 力 学 講 座 応 用 シ ス テ ム 解 析 講 座 工 業 数 学 講 座 工 業 力 学 講 座 工 業 数 学 第 2 講 座 事 務 図 書 計 算 機 室 学 生 実 験	大矢 片山 長谷川 茨木 上田 得丸 西村 伊原 布川	藪下 酒井 福岡 浅田 岩井 鶴井 野木	松村 荻野	森本・多羅間 藤中 高橋・室 増山・大西 石森・金子 石田・飯國 明山・三澤 松下・五十嵐 山本・杉本	 栗田 小林 嶋田	篠田 篠田 小池 藤澤 大高 北川 北川 小池 安原・長屋・藤澤 中奥

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官
応用数学講座 制御理論講座 システム講座 計画工学講座 応用力学講座 工業数学講座 工業力学講座 事務 図書 計算機室 学生実験	大矢 片山 長谷川 茨木 上田 西村 鶴井	藪下 福岡 宗像 松下 岩井	多羅間 荻野	森本・原 藤中 高橋・滝根 大西 石森・金子 三澤・上野 五十嵐	 小林 嶋田	加藤 富高 長屋 藤澤 加藤 北川 北川 小池・長屋・富高 中興

応用システム科学専攻

講 座 名	教 授	助教授	講 師	助 手	技 官	事 務 官
システム基礎論講座 応用人工知能論講座 機械電子制御論講座 論理システム講座 事務	布川 沖野 得丸 長谷川	野木 山本 酒井 福岡		杉本 渡部 石田・飯國 高橋・滝根		大高 大高 長屋 安原

専門4. カリキュラム当表

専門課程科目標準配当表

昭和55年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年				第 四 学 年			
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位
選 択 科 目				必 修 科 目			
工業力学第一A	鶴井	2	2	特 別 研 究		通年	
工業力学第二A	伊原		2 2	選 択 科 目			
工業数学A第一	大矢, 藪下	2	2 4	近 代 解 析	大矢	2	2
工業数学A第二	藪下		2 2	応用現代数学	池田		2 2
確 率 と 統 計	三根, 大野	2	2	制御工学第二	布川, 片山	2	2
数 値 解 析 学	藪下	2	2	情 報、理 論	三根	2	2
制 御 工 学 第 一	得丸, 布川, 片山	2	2 4	連続体力学第二	上田, 久保	2	2
オペレーション ズ・リサーチ	三根, 大野(勝)	4	4	システム理論 第二	得丸, 島		2 2
論理システム	長谷川, 茨木	2	2 4	最適制御理論	島, 片山		2 2
計 測 工 学	長谷川, 茨木		2 2	振 動 学	得丸	2	2
物 理 統 計	上田	2	2 4	アルゴリズム論	上林	2	2
連続体力学第一	上田, 久保	2	2	計算機システム	萩原		2 2
システム理論 第一	得丸, 島	2	2 4	一般電子工学 第二	近藤, 安陪	2	2
プログラミング 言語	津田	2	2	量子力学	星崎, 梅村	2	2 4
計算機の構成	萩原	2	2	数理工学実験 第三	全員	(6)	2
一般電子工学 第一A	安陪		2 2	☒学 外 実 習			
数理工学実験 第二	全員		(6) 2				
☒数理工学演習	全員	(4)	2				
☒数理工学ゼミ ナール	全員		(4) 2				

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☒印は評点をつけない科目。

昭和56年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第三学年					第四学年				
科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位		科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2		特別研究			通年	
工業力学第二A	伊原	2	2		選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢	2	2	4	近代解析	大矢	2	2	
工業数学A第二	蔵下	2	2		応用現代数学	池田		2	2
確率と統計	三根, 大野(勝)	2	2		制御工学第二	布川, 片山	2	2	
数値解析学	蔵下	2	2		情報理論	三根	2	2	
制御工学第一	得丸, 布川, 片山	2	2	4	連続体力学第二	上田, 久保	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ	三根, 大野(勝)	4	4		システム理論 第二	得丸, 島	2	2	
論理システム	長谷川, 茨木	2	2	4	最適制御理論	島, 片山		2	2
計測工学	長谷川, 茨木		2	2	振動学	得丸	2	2	
物理統計	上田	2	2	4	アルゴリズム論	上林	2	2	
連続体力学第一	上田, 久保	2	2		計算機システム	萩原		2	2
システム理論 第一	得丸, 島	2	2	4	一般電子工学 第二	板谷, 安陪	2	2	
プログラミング 言語	津田	2	2		量子力学	星崎, 梅村	2	2	4
計算機の構成	萩原	2	2		数理工学実験 第三	全員	(6)	2	
一般電子工学 第一A	池上(淳)		2	2	☒学外実習				
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
☒数理工学演習	全員	(4)	2						
☒数理工学ゼミ ナール	全員	(4)	2						

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☒印は評点をつけない科目。

昭和57年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年					第 四 学 年				
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位		科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	伊原	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	蔵下		2	2	応用現代数学	池田		2	2
確 率 と 統 計	三根, 大野(勝)	2		2	制 御 工 学 第 二	布川, 片山	2		2
数 値 解 析 学	蔵下	2		2	情 報 理 論	三根	2		2
制 御 工 学 第 一	得丸, 布川, 片山	2	2	4	連続体力学第二	上田, 久保	2		2
オペレーション ズ・リサーチ	三根, 大野(勝)		4	4	システム理論 第二	得丸, 島	2		2
論理システム	長谷川, 茨木	2	2	4	最適制御理論	島, 片山		2	2
計 測 工 学	長谷川, 茨木		2	2	振 動 学	得丸	2		2
物 理 統 計	上田	2	2	4	アルゴリズム論	上林	2		2
連続体力学第一	上田, 久保	2		2	計算機システム	萩原		2	2
システム理論 第一	得丸, 島	2	2	4	一般電子工学 第二	板谷, 安陪	2		2
プログラミング 言語	津田	2		2	量 子 力 学	星崎, 梅村	2	2	4
計算機の構成	萩原	2		2	数理工学実験 第三	全員	(6)		2
一般電子工学 第一A	川端		2	2	☑学 外 実 習				
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
☑数理工学演習	全員	(4)		2					
☑数理工学ゼミ ナール	全員		(4)	2					

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☑印は評点をつけない科目。

昭和58年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年					第 四 学 年				
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位		科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	久保	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	蔽下		2	2	応用現代数学			2	2
確 率 と 統 計	三根, 大野(勝)	2	2		制御工学第二	得丸, 片山	2	2	
数 値 解 析 学	蔽下	2	2		情 報 理 論	三根	2	2	
制 御 工 学 第 一	得丸, 布川, 片山	2	2	4	連続体力学第二	上田, 久保	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ	三根, 大野(勝)		4	4	システム理論 第二	得丸	2	2	
論理システム	長谷川	2	2	4	最適制御理論	片山		2	2
計 測 工 学	長谷川		2	2	振 動 学	得丸	2	2	
物 理 統 計	上田	2	2	4	アルゴリズム論	上林	2	2	
連続体力学第一	上田, 久保	2	2		計算機システム	萩原		2	2
システム理論 第一	得丸	2	2	4	一般電子工学 第二	坂谷, 安陪	2	2	
プログラミング 言語	津田	2	2		量 子 力 学	星崎, 梅村	2	2	4
計算機の構成	萩原	2	2		数理工学実験 第三	全員	(6)	2	
一般電気工学A	安陪	2	2						
一般電子工学 第一A	川端		2	2					
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
△電気工学実験	安陪	(3)		1					
☒数理工学演習	全員	(4)		2					
☒数理工学セミ ナール	全員	(4)		2					
☒学 外 実 習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。

☒印は評点をつけない科目。

△印：電気工学実験の履修を申し出た場合は必ず履修しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和59年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年					第 四 学 年				
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位		科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	蔵下		2	2	応用現代数学			2	2
確 率 と 統 計	大野	2	2		制御工学第二	吉川	2	2	
数 値 解 析 学	野木	2	2		情 報 理 論	三根	2	2	
制 御 工 学 第 一	得丸, 布川	2	2	4	連続体力学第二	上田, 久保	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ	三根, 大野		4	4	システム理論 第二	酒井	2	2	
論理システム	長谷川, 福岡	2	2	4	最適制御理論	得丸		2	2
計 測 工 学	長谷川, 福岡		2	2	振 動 学	得丸	2	2	
物 理 統 計	上田	2	2	4	アルゴリズム論	矢島, 上林	2	2	
連続体力学第一	上田, 久保	2	2		計算機システム	萩原		2	2
システム理論 第一	得丸, 酒井	2	2	4	一般電子工学 第二	木村, 安陪, 麻生	2	2	
プログラミング 言語	津田	2	2		量 子 力 学	星崎, 梅村	2	2	4
計 算 機 の 構 成	萩原	2	2		数理工学実験 第三	全員	(6)	2	
一般電気工学A	安陪, 麻生	2	2						
一般電子工学 第一A	川端, 安陪, 麻生		2	2					
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
△電気工学実験	安陪, 麻生	(3)	1						
☒数理工学演習	全員	(4)	2						
☒数理工学セミ ナール	全員		(4)	2					
☒学 外 実 習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☒印は評点をつけない科目。

△印：電気工学実験の履習を申し出た場合は必ず履習しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和60年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第三学年					第四学年				
科目名	担当教官	毎週 時数	単位		科目名	担当教官	毎週 時数	単位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	松村		2	2	応用現代数学	西村		2	2
確率と統計	大野(勝)	2		2	制御工学第二	酒井	2		2
数値解析学	野木	2		2	情報理論	長谷川	2		2
制御工学第一	得丸, 布川, 酒井	2	2	4	連続体力学第二	上田	2		2
オペレーション ズ・リサーチ	福岡, 大野(勝)		4	4	システム理論 第二	得丸	2		2
論理システム	長谷川, 福岡	2	2	4	最適制御理論	得丸		2	2
計測工学	長谷川, 福岡		2	2	振 動 学	得丸	2		2
物理統計	上田	2	2	4	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2		2
連続体力学第一	上田, 鶴井	2		2	計算機システム	萩原		2	2
システム理論 第一	得丸, 酒井	2	2	4	一般電子工学 第二	木村, 安路, 麻生	2		2
プログラミング 言語	津田	2		2	量子力学	昆崎, 梅村	2	2	4
計算機の構成	萩原	2		2	数理工学実験 第三	全員	(6)		2
一般電気工学A	安路, 麻生	2		2					
一般電子工学 第一A	川端, 安路, 麻生		2	2					
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
△電気工学実験	安路, 麻生, 松木	(3)		1					
☒数理工学演習	全員		(4)	2					
☒数理工学ゼミ ナール	全員		(4)	2					
☒学 外 実 習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
 ☒印は評点をつけない科目。
 △印：電気工学実験の履修を申し出た場合は必ず履修しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和60年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年				第 四 学 年			
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位
選 択 科 目				必 修 科 目			
工業力学第一A	鶴井	2	2	特 別 研 究		通年	
工業力学第二A	伊原		2	選 択 科 目			
工業数学A第一	大矢	2	2	近 代 解 析	大矢	2	2
工業数学A第二	松村		2	応用現代数学	西村		2
確率と統計	大野(勝)	2	2	制御工学第二	酒井	2	2
数値解析学	野木	2	2	情報理論	長谷川	2	2
制御工学第一	得丸, 布川, 酒井	2	2	連続体力学第二	上田	2	2
オペレーション ズ・リサーチ	福岡, 大野(勝)		4	システム理論 第二	得丸	2	2
論理システム	長谷川, 福岡	2	2	最適制御理論	得丸		2
計測工学	長谷川, 福岡		2	振動学	得丸	2	2
物理統計	上田	2	2	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2	2
連続体力学第一	上田, 鶴井	2	2	計算機システム	萩原		2
システム理論 第一	得丸, 酒井	2	2	一般電子工学 第二	木村, 安陪, 麻生	2	2
プログラミング 言語	津田	2	2	量子力学	星崎, 梅村	2	2
計算機の構成	萩原	2	2	数理工学実験 第三	全員	(6)	2
一般電気工学A	安陪, 麻生	2	2				
一般電子工学 第一A	川端, 安陪, 麻生		2				
数理工学実験 第二	全員	(6)	2				
△電気工学実験	安陪, 麻生, 松木	(3)	1				
☒数理工学演習	全員	(4)	2				
☒数理工学ゼミ ナール	全員	(4)	2				
☒学 外 実 習							

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☒印は評点をつけない科目。

△印：電気工学実験の履習を申し出た場合は必ず履習しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和61年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年				第 四 学 年			
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単位
選 択 科 目				必 修 科 目			
工業力学第一A	鶴井	2	2	特 別 研 究			通年
工業力学第二A	伊原		2 2	選 択 科 目			
工業数学A第一	大矢	2	2 4	近 代 解 析	大矢	2	2
工業数学A第二	松村		2 2	応用現代数学	西村		2 2
確 率 と 統 計	茨木	2	2	制御工学第二	片山, 酒井	2	2
数 値 解 析 学	野木	2	2	情 報 理 論	茨木	2	2
制御工学第一	片山, 布川, 酒井	2	2 4	連続体力学第二	上田	2	2
オペレーション ズ・リサーチ	茨木, 福嶋		4 4	非線形システム 論	得丸	2	2
論理システム	長谷川, 荻野	2	2 4	現代制御論	片山	2	2
計 測 工 学	長谷川, 荻野		2 2	振 動 学	得丸, 浅田	2	2
物 理 統 計	上田	2	2 4	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2	2
連続体力学第一	上田, 鶴井	2	2	計算機システム	萩原		2 2
システム解析入門	浅田	2	2	一般電子工学 第二	木村, 安陪, 麻生	2	2
システム理論	得丸		2 2	量子力学	星崎, 梅村	2	2 4
プログラミング 言語	津田	2	2	数理工学実験 第三	全員	(6)	2
計算機の構成	萩原	2	2	数理工学設計 演習	全員	(4)	2
一般電気工学A	安陪, 麻生	2	2				
一般電子工学 第一A	川端, 安陪, 麻生		2 2				
数理工学実験 第二	全員		(6) 2				
△電気工学実験	安陪, 麻生, 松木	(3)	1				
☐数理工学演習	全員	(4)	2				
☐数理工学セミ ナール	全員		(4) 2				
☐学 外 実 習							

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
 ☐印は評点をつけない科目。
 △印：電気工学実験の履習を申し出た場合は必ず履習しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和62年度専門課程科目標準配当表
数 理 工 学 科

第 三 学 年					第 四 学 年				
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位		科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢, 松村	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	松村		2	2	現 代 制 御 論	片山	2	2	
応用現代数学	西村		2	2	情報システム理 論	長谷川	2	2	
システム数学	布川	2	2		情 報 理 論	茨木	2	2	
確 率 と 統 計	片山, 酒井	2	2		統計物理学第二	上田, 宗像	2	2	
数 値 解 析 学	野木	2	2		非 線 形 力 学	得丸	2	2	
制 御 工 学	片山, 酒井		4	4	量 子 力 学 B	星崎		2	2
論理システム	長谷川, 荻野	2	2	4	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ	茨木, 福嶋	2	2	4	計算機システム	荻原		2	2
システム理論	茨木		2	2	一般電子工学 第二	木村, 安陪, 麻生	2	2	
統計物理学第一	上田, 宗像	2	2	4	数理工学実験 第三	全員	(6)	2	
連 統 体 力 学	上田, 宗像		2	2	数理工学設計 演習	全員	(4)	2	
振 動 学	得丸, 浅田	2	2						
量 子 力 学 A	梅村	2	2						
プログラミング 言語	津田	2	2						
計 算 機 の 構 成	荻原	2	2						
一般電気工学B	安陪, 麻生	2	2						
一般電子工学 第一A	川端, 安陪, 麻生		2	2					
数理工学実験 第二	全員		(6)	2					
△電気工学実験	安陪, 麻生, 松木	(3)		1					
□数理工学演習	全員	(4)		2					
□数理工学ゼミ ナール	全員		(4)	2					
□学 外 実 習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
 □印は評点をつけない科目。
 △印：電気工学実験の履修を申し出た場合は必ず履修しなければならない。ただし、その単位は必修単位数には含まれない。

昭和63年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第三学年					第四学年				
科目名	担当教官	毎週 時数	単位 前後	単位	科目名	担当教官	毎週 時数	単位 前後	単位
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2	2	特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	伊原		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢, 多羅間	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2		2
工業数学A第二	多羅間		2	2	現代制御論	片山	2		2
応用現代数学	西村		2	2	情報システム理論	長谷川	2		2
システム数学	布川	2		2	情報理論	灰木	2		2
確率と統計	片山, 酒井	2		2	統計物理学第二	上田, 宗像	2		2
数値解析学	野木	2		2	計算機援用設計	沖野	2		2
制御工学第一	片山, 酒井	2		2	非線形力学	得丸	2		2
制御工学第二	片山, 酒井		2	2	量子力学B	星崎		2	2
論理システム	長谷川, 荻野	2	2	4	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2		2
オペレーションズ・リサーチ第一	灰木, 福嶋	2		2	一般電子工学第二	木村, 安陪, 麻生	2		2
オペレーションズ・リサーチ第二	灰木, 福嶋		2	2	数理工学設計演習	全員	(4)		2
システム理論	灰木		2	2					
統計物理学第一	上田, 宗像	2	2	4					
連続体力学	上田, 宗像		2	2					
人工知能基礎	沖野		2	2					
振動学	得丸, 浅田	2		2					
量子力学A	梅村	2		2					
プログラミング言語	津田	2		2					
一般電気工学B	安陪, 麻生	2		2					
一般電子工学第一A	川端, 安陪, 麻生		2	2					
数理工学実験第二	全員	(6)		2					
数理工学実験第三	全員		(6)	2					
数理工学演習	全員	(4)		2					
数理工学ゼミナール	全員		(4)	2					
☒学外実習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
☒印は評点をつけない科目。

平成元年度専門課程科目標準配当表

数理工学科

第 三 学 年					第 四 学 年				
科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数	単 位	前後	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数	単 位	前後
選 択 科 目					必 修 科 目				
工業力学第一A	鶴井	2	2		特 別 研 究			通年	
工業力学第二A	鶴井		2	2	選 択 科 目				
工業数学A第一	大矢, 多羅間	2	2	4	近 代 解 析	大矢	2	2	
工業数学A第二	多羅間		2	2	現 代 制 御 論	片山	2	2	
応用現代数学	西村		2	2	情報システム理 論	長谷川	2	2	
システム数学	布川	2	2		情 報 理 論	茨木	2	2	
確 率 と 統 計	片山, 酒井	2	2		統計物理学第二	上田, 宗像	2	2	
数 値 解 析 学	野木	2	2		計算機援用設計	沖野	2	2	
制 御 工 学 第 一	片山, 酒井	2	2		非 線 形 力 学	得丸	2	2	
制 御 工 学 第 二	片山, 酒井		2	2	量 子 力 学 B	星崎		2	2
論理システム	長谷川, 荻野	2	2	4	アルゴリズム論	矢島, 岩間	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ第一	茨木, 福嶋	2	2		一般電子工学 第二	木村, 安陪, 麻生	2	2	
オペレーション ズ・リサーチ第二	茨木, 福嶋		2	2	数理工学設計 演習	全員	(4)	2	
システム理論	茨木		2	2					
統計物理学第一	上田, 宗像	2	2	4					
連続体力学	上田, 宗像		2	2					
人工知能基礎	沖野		2	2					
振 動 学	得丸	2	2						
量 子 力 学 A	梅村	2	2						
プログラミング 言語	津田	2	2						
一般電気工学B	安陪, 麻生	2	2						
一般電子工学 第一A	川端, 安陪, 麻生		2	2					
数理工学実験 第二	全員	(6)	2						
数理工学実験 第三	全員		(6)	2					
数理工学演習	全員	(4)	2						
数理工学セミナ ール	全員		(4)	2					
学 外 実 習									

教養部の自然科学系一般教育科目から34単位以上、専門教育科目から62単位以上、あわせて96単位以上を修得しなければならない。ただし、専門教育科目については、46単位以上を第二学年に配当された専門教育科目及び上表中のものから修得しなければならない。
 ☐印は評点をつけない科目。

修士課程科目標準配当表
(数理工学専攻)

昭和55年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位	科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位
応用数学特論	大矢	2	2	システム理論特論	得丸 島	2	2
工業数学特論第一	池田(峰)	2	2	振動学特論	得丸	2	2
工業数学特論第二	布川	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)(2)	2
自動制御理論特論第一	片山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全員	(6)(6)	4
自動制御理論特論第二	片山	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全員	(6)(6)	4
情報システム理論第一	長谷川 茂	2	2	※プロセスシステム 論	高橋 松本	2	2
情報システム理論第二	長谷川 茂	2	2	※計算機システム特 論第一	萩原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	三根 大野(勝)	2	2	※情報システム特論 第一	大野(豊)	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	三根 大野(勝)	2	2	研 究 論 文			
統計物理学特論	上田 久保	2	2				
工業力学特論	伊原 鶴井	2	2				

昭和56年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎 週 時 数 前 後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎 週 時 数 前 後	単 位
応 用 数 学 特 論	大 矢	2	2	シ ス テ ム 理 論 特 論	得 島 丸	2	2
工 業 数 学 特 論 第 一	池 田 (峰)	2	2	振 動 学 特 論	得 丸	2	2
工 業 数 学 特 論 第 二	布 川	2	2	工 業 数 学 特 論 演 習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2) 2
自動制御理論特論第 一	片 山	2	2				
自動制御理論特論第 二	片 山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第 一	長 谷 川 木	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第 二	長 谷 川 木	2	2	※プロセスシステム 論	高 橋 本 (伊)	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	三 大 野 (勝)	2	2	※計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	三 大 野 (勝)	2	2	※情報システム特論 第一	大 野 (豊)	2	2
統計物理学特論	上 久 田 保	2	2	研 究 論 文			
工業力学特論	伊 鶴 原 井	2	2				

昭和57年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科目名	担当教官	毎週 時数	単位 前後	科目名	担当教官	毎週 時数	単位 前後
応用数学特論	大 矢	2	2	システム理論特論	得 島 丸	2	2
工業数学特論第一	池 田(峰)	2	2	振 動 学 特 論	得 丸	2	2
工業数学特論第二	布 川	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2) 2
自動制御理論特論第一	片 山	2	2				
自動制御理論特論第二	片 山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第一	長 谷 川 茂 木	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第二	長 谷 川 茂 木	2	2	※プロセスシステム 論	高 橋 松 本 (伊)	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	三 大 野 根 大 野 (勝)	2	2	※計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	三 大 野 根 大 野 (勝)	2	2	※情報システム特論 第一	大 野 (豊)	2	2
統計物理学特論	上 久 田 保 保	2	2	研 究 論 文			
工業力学特論	伊 鶴 原 井 井	2	2				

昭和58年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位	科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位
応用数学特論	大 矢	2	2	システム理論特論	得 丸	2	2
工業数学特論第一	池 田 岩 井	2	2	振動学特論	得 丸	2	2
工業数学特論第二	布 川	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2) 2
自動制御理論特論第一	片 山	2	2				
自動制御理論特論第二	片 山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第一	長 谷 川	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第二	長 谷 川 福 嶋	2	2	※プロセスシステム 論	高 橋 本 (伊)	1	2 3
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	三 大 野 (勝) 根	2	2	※計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	三 大 野 (勝) 根	2	2	※情報システム特論 第一	大 野 (豊)	2	2
統計物理学特論	上 久 田 保	2	2	研 究 論 文			
工業力学特論	伊 鋺 原 井	2	2				

昭和59年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用数学特論	大 矢	2	2	システム理論特論	得 丸 酒 井	2	2
工業数学特論第一	布 川	2	2	振動学特論	得 丸	2	2
工業数学特論第二	大 矢	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2) 2
自動制御理論特論第一	布 川	2	2				
自動制御理論特論第二	得 丸 片 山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第一	長 谷 川 福 嶋	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6) 4
情報システム理論第二	長 谷 川 福 嶋	2	2	※プロセスシステム 論	高 松 橋 本 (伊)	1	2 3
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	三 根	2	2	※計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	三 根	2	2	※情報システム特論 第一	大 野	2	2
統計物理学特論	上 田 久 保	2	2	研 究 論 文			
工業力学特論	伊 原 鶴 井	2	2				

昭和60年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位	科目名	担当教官	毎週 時数 前後	単位
応用数学特論	大 矢	2	2	システム理論特論	得 酒 丸 井	2	2
工業数学特論第一	布 川	2	2	振 動 学 特 論	得 酒 丸	2	2
工業数学特論第二	西 村	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2)
自動制御理論特論第一	布 川	2	2			(2)	2
自動制御理論特論第二	酒 片 井 山	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6)
情報システム理論第一	長 谷 川 嶋	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6)
情報システム理論第二	長 谷 川	2	2	※プロセスシステム 論	高 橋 本 (伊) 松	1	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	長 谷 川 嶋	2	2	※計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	長 谷 川 嶋	2	2	※情報システム特論 第一	大 野	2	2
統計物理学特論	上 田	2	2	研 究 論 文			
工業力学特論	伊 原 井 鶴	2	2				

昭和61年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応 用 数 学 特 論	大 矢	2	2	ロ ボ ッ ト 工 学 特 論	得 浅 丸 田	2	2
工 業 数 学 特 論 第 一	布 川	2	2	振 動 学 特 論	得 浅 丸 田	2	2
工 業 数 学 特 論 第 二	西 村	2	2	工 業 数 学 特 論 演 習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2)
自動制御理論特論第 一	片 酒 山 井	2	2			(2)	2
自動制御理論特論第 二	片 酒 山 井	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6)
情報システム理論 特論第一	長 谷 川 野	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6)
情報システム理論 特論第二	長 谷 川 野	2	2	※ プロセスシステム	高 橋 本 (伊) 松	1	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	茨 福 木 嶋	2	2	※ 計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	茨 福 木 嶋	2	2	※ 情報システム特論 第一	大 野	2	2
統計物理学特論	上 田	2	2	研 究 論 文			
工 業 力 学 特 論	伊 鶴 原 井	2	2				

昭和62年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応 用 数 学 特 論	大 矢	2	2	ロ ボ ッ ト 工 学 特 論	得 浅 丸 田	2	2
工 業 数 学 特 論 第 一	布 川	2	2	振 動 学 特 論	得 浅 丸 田	2	2
工 業 数 学 特 論 第 二	西 岩 村 井	2	2	工 業 数 学 特 論 演 習	応用数学・ 工業数学・ 工業数学第 二・各講座 教官	(2)	(2)
自 動 制 御 理 論 特 論 第 一	片 酒 山 井	2	2				
自 動 制 御 理 論 特 論 第 二	片 酒 山 井	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)	(6)
情 報 シ ス テ ム 理 論 特 論 第 一	長 谷 川 野	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)	(6)
情 報 シ ス テ ム 理 論 特 論 第 二	長 谷 川 野	2	2	※ プロセスシステム 論	高 橋 本 (伊)	1	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	茨 福 木 嶋	2	2	※ 計算機システム特 論第一	萩 原	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	茨 福 木 嶋	2	2	※ 情報システム特論 第一	大 野	2	2
統 計 物 理 学 特 論	上 宗 田 俊	2	2	研 究 論 文			
工 業 力 学 特 論	伊 鶴 原 井	2	2				

昭和63年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用数学特論第一	大 矢	2	2	工業力学特論	伊 原 鶴 井	2	2
応用数学特論第二	大 矢	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 各講座教官	(2)(2)	2
工業数学特論第一	布 川	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)(6)	4
工業数学特論第二	西 村 岩 井	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)(6)	4
自動制御理論特論第一	片 山 酒 井	2	2	※プロセスシステム ○論	橋 本 (伊)	2	2
自動制御理論特論第二	片 山 酒 井	2	2	※□プロセス制御論	橋 本 (伊)	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	茨 木 福 嶋	2	2	※システムモデリン グ	山 本	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	茨 木 福 嶋	2	2	※機械システム振動 論	得 丸 浅 田	2	2
統計物理学特論第一	上 田 宗 像	2	2	※最 適 計 画 論	長 谷 川 福 嶋	2	2
統計物理学特論第二	上 田 宗 像	2	2	研 究 論 文			

平成元年度修士課程科目標準配当表

数理工学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用数学特論第一	大 矢	2	2	工業力学特論	鶴 井	2	2
応用数学特論第二	大 矢	2	2	工業数学特論演習	応用数学・ 工業数学・ 各講座教官	(2)(2)	2
工業数学特論第一	布 川	2	2	数理工学特別実験及 演習第一	全 員	(6)(6)	4
工業数学特論第二	西 岩 村 井	2	2	数理工学特別実験及 演習第二	全 員	(6)(6)	4
自動制御理論特論第一	片 酒 山 井	2	2	※プロセスシステム □論	橋 本 (伊)	2	2
自動制御理論特論第二	片 酒 山 井	2	2	※プロセス制御論	橋 本 (伊)	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第一	茨 福 木 嶋	2	2	※システムモデリン グ	山 本	2	2
オペレーションズ・ リサーチ特論第二	茨 福 木 嶋	2	2	※機械システム振動 論	得 丸	2	2
統計物理学特論第一	上 宗 田 像	2	2	※最 適 計 画 論	長 谷 川 嶋	2	2
統計物理学特論第二	上 宗 田 像	2	2	研 究 論 文			

修士課程科目標準配当表
(応用システム科学専攻)

昭和62年度修士課程科目標準配当表

応用システム科学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用人工知能論	沖 野	2	2	☒計算機援用設計・ 運用論	沖 野	2	2
システムモデリング	山 本	2	2	☒機械電子制御特論	得 浅 丸 田	2	2
システム計測制御論	得 浅 丸 田	2	2	☒水管理システム特 論第二	(防研)友杉	2	2
機械システム制御論	得 浅 丸 田	2	2	☒交通システム特論 第二	吉 川 (和)	2	2
水管理システム特論 第一	(防研)池淵	2	2	☒最 適 計 画 論	長 谷 川 鶴	2	2
交通システム特論 第一	黒 田	2	2	☒システム解析特論 第二	野 木	2	2
医療画像情報学	英 保	2	2	応用システム科学特 別実験及演習第一	全 員	(6)(9)	5
生体制御システム	森	2	2	応用システム科学 ☒特別実験及演習 第二	全 員	(6)(9)	5
ロボット工学	吉 川 (恒)	2	2	※応用システム理論	西 三 川 宮	2	2
サ ー ボ 理 論	渡 部	2	2	※情 報 論	岩 井	2	2
情報通信システム	長 谷 川	2	2	※プロセスシステム 論	高 橋 本 (伊)	1	2 3
システム解析特論 第一	布 川	2	2	※統計物理学特論	上 宗 田 像	2	2
応用情報学特論第一	(大型セ) 星 野	2	2	※工業数学特論第二	西 村	2	2
応用情報学特論第二	(大型セ) 島 崎	2	2	研 究 論 文			

〔注〕 ☒印は来年度開講

昭和 6 3 年度修士課程科目標準配当表

応用システム科学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用人工知能論	沖 野	2	2	機械電子制御特論	得 浅 丸 田	2	2
システムモデリング	山 本	2	2	水管理システム特論 第二	(防研)友杉	2	2
システム計測制御論	得 浅 丸 田	2	2	交通システム特論 第二	吉 川 (和)	2	2
機械システム振動論	得 浅 丸 田	2	2	最 適 計 画 論	長 谷 川 嶋	2	2
水管理システム特論 第一	(防研)池淵	2	2	システム解析特論 第二	野 木	2	2
交通システム特論 第一	黒 田	2	2	応用システム科学特別 実験及演習第一	全 員	(6)(9)	5
医療画像情報学	英 保	2	2	応用システム科学特別 実験及演習第二	全 員	(6)(9)	5
生体制御システム	森	2	2	※応用システム理論	西 三 川 宮	2	2
ロボット工学	吉 川 (恒)	2	2	※情 報 論	岩 井	2	2
サ ー ボ 理 論	吉 川 (恒)	2	2	※プロセスシステム ○論	橋 本 (伊)	2	2
情報通信システム	長 谷 川 野	2	2	※プロセス制御論	橋 本 (伊)	2	2
システム解析特論 第一	布 川	2	2	※統計物理学特論 第一	上 宗 田 像	2	2
応用情報学特論第一	(大型セ) 星 野	2	2	※工業数学特論第二	西 岩 村 井	2	2
応用情報学特論第二	(大型セ) 島 崎 金 澤	2	2	研 究 論 文			
計算機援用設計論	沖 野	2	2				

平成元年度修士課程科目標準配当表

応用システム科学専攻

科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位	科 目 名	担 当 教 官	毎週 時数 前後	単 位
応用人工知能論	沖 野	2	2	□機械電子制御特論	得 丸	2	2
システムモデリング	山 本	2	2	水管理システム特論 第二	(防研)友杉	2	2
システム計測制御論	得 丸	2	2	交通システム特論 第二	吉 川 (和)	2	2
機械システム振動論	得 丸	2	2	最 適 計 画 論	長 谷 川 鳩 福	2	2
水管理システム特論 第一	(防研)池淵	2	2	システム解析特論 第二	野 木	2	2
交通システム特論 第一	黒 田	2	2	応用システム科学特 別実験及演習第一	全 員	(6)(9)	5
医療画像情報学	英 保	2	2	応用システム科学特 別実験及演習第二	全 員	(6)(9)	5
生体制御情報システム	森	2	2	※応用システム理論	西 三 川 宮	2	2
ロボット工学	吉 川 (恒)	2	2	※情 報 論	岩 井	2	2
サ ー ボ 理 論	吉 川 (恒) 江 杉	2	2	※プロセスシステム □論	橋 本 (伊)	2	2
情報通信システム	長 谷 川 野 狭	2	2	※プロセス制御論 ○	橋 本 (伊)	2	2
システム解析特論 第一	布 川	2	2	※統計物理学特論 第一	上 宗 田 像	2	2
応用情報学特論第一	(大型セ) 星 野	2	2	※工業数学特論第二	西 岩 村 井	2	2
応用情報学特論第二	(大型セ) 島 崎 澤 金	2	2	研 究 論 文			
計算機援用設計論	沖 野	2	2				

あ と が き

京都大学工学部に数理工学教室が創設されてから、今年度が丁度30年目にあたります。そこで、新たな飛躍の時代を迎えるべく、創設30周年記念事業を行うこととなりました。その一環としまして、先に刊行しました「数理工学教室の20年の歩み」の続編とも言うべき本記念誌を編纂することにしました。そこで重複をさけるために、教官陣容の変遷および年表、カリキュラム体系、特別研究題目、修士・博士論文題目、教官研究論文題目等の紹介は、最近10年間のものに限りしました。また、卒業生就職先一覧に関しましては、本誌の姉妹編として、本年8月刊行されました数理会会員名簿を御参照下さい。

この間、昭和62年には、工学研究科に应用システム科学専攻が設立されました。应用システム科学教室のいくつかの研究室は、当教室と密接な関係にあり、共同で運営に当たっていることを考慮致しまして、その簡単な紹介記事を掲載すると共に应用システム科学教室に関するカリキュラム体系等も含めてあります。21世紀へ向けて、数理工学教室には一層の充実と発展が期待されておりますが、この科学技術の進歩のめざましい時代に、関係者からの寄稿を掲載すると共に教室の足跡を記録にとどめておくことは、必ずや数理工学の将来を語るための参考になることと思います。

本誌発刊に際しましては、故池田峰夫先生御遺族、並びに本学名誉教授三根久先生から当教室に御寄贈戴いておりました資金を活用させていただきました。紙面をお借り致しまして、ここに厚く御礼申し上げます。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、原稿をお寄せ下さいました皆様方、資料作成にご協力戴きました皆様方に深く感謝の意を表します。

平成元年11月

記念誌編纂委員

片山 徹

鶴井 明

酒井 英昭

数理工学教室創設30周年記念誌

平成元年11月25日発行

編集・発行者 京都大学工学部 数理工学教室
京都市左京区吉田本町
電話 075 (753) 5500

印刷所 新写植出版株式会社
大阪市東成区神路1-7-2
電話 06 (974) 0481

非売品